# 第三者意見／第三者意見を受けて

## 第三者意見

早稲田大学
理工学術院教授
**所　千晴 様**

大平洋金属株式会社は、日本を代表するフェロニッケルメーカーとして、世界トップクラスのフェロニッケルメーカーとなるべく明確な長期ビジョンを持ち、活発な企業活動を行っています。以下に、この環境・社会報告書2019の中から特に評価される取り組みと、さらなる発展に向けて期待する点について述べさせていただきます。

**フェロニッケル生産の持続可能な発展に対する取り組み**

ニッケルのサプライチェーンを考えますと、ステンレス原料としてはもちろんのこと、ノーベル賞受賞でも話題となっているリチウムイオン電池正極材の原料としても、これからますます需要は拡大するものと予想されます。したがって、様々な観点からフェロニッケル生産の多様化・多角化をすすめられている取り組みは高く評価できます。

国内では資源の安定的確保を目指すべく、産官学が協同したオールジャパン体制での技術開発や人材育成への取り組みも始まっています。日本を代表するフェロニッケルメーカーとして、それらの取り組みとも連携し、新規技術開発や多様な人材育成、海外展開へと加速していただければと思います。

**SDGsに対する多種多様な取り組み**

$CO_2$などの地球温暖化ガス排出量削減への取り組みのみならず、副産物として発生するスラグの再資源化や、焼却灰・ホタテ貝殻などの廃棄物の再利用、各製造工程における確実な大気汚染防止および水質汚濁防止など、SDGsを強く意識し、複数の目標に貢献する多様な取り組みを行っていることは高く評価できます。この報告書も、各取り組みとSDGsの17の目標とがそれぞれ明確に関連づけられており、大変見やすく構成されています。今後も製造工程への積極的な廃棄物利用や、スラグ用途の拡大などを通じて、ハイレベルな資源循環プロセスの構築に引き続き取り組んでいただければと思います。

**社員が満足する職場環境づくりへの取り組み**

社員一人ひとりが仕事にやりがいを感じられるような新規人事制度の導入や、労働安全活動の重視などを通じて、働きがいのある企業を目指している取り組みは高く評価できます。これからは、SDGsにも掲げられている人材の多様化も重要な視点として積極的に取り組んでいただければと思います。

**最後に**

ESGの概念は今後ますます注目度を増すと考えられます。本報告書でもその取り組みについて触れられていますが、今後はさらにそれぞれの項目における取り組みを充実させ、より魅力のある発信をしていただければと思います。

「人の力を活かし、地球の資源をより有用なるものとして提供し、人類社会の幸福に貢献する」という経営理念は、まさにSDGsに通じる考え方です。今後も革新的な技術とシステムをもって、持続可能な社会の実現に向けて貢献されることを期待しております。

## 第三者意見を受けて

取締役　上席執行役員
品質・環境管理部長
**猪股　吉晴**

早稲田大学理工学術院教授、所千晴様におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、当社の「環境・社会報告書2019」に対する第三者意見を寄稿いただき、厚く御礼申し上げます。また、当社の事業内容および当社がおかれている事業環境をご理解いただいたうえで、環境・社会報告書の取り組み内容を評価していただきまして、深く感謝申し上げます。

所様に評価していただきましたとおり、当社ではフェロニッケル生産を基盤に、限りある資源の有効活用に向けた事業の多様化・多角化の取り組みを推進しております。新中期経営計画PAMCO-2021においても、これまでの取り組みをさらに発展・強化していく所存です。今後も、事業活動を通じてSDGsを積極的に推進し、社会の持続的発展に貢献していきます。そのためにも、今回発行いたしました「環境・社会報告書2019」は、各項目に対応するSDGsの目標を掲載しております。

また、ご提案いただきました人材の多様化も含め、働きがいのある企業を目指すことは当社のみならず全ての企業に共通する課題であると思いますので、それに向けての取り組みも推進していきます。



# 大平洋金属の歩み

| | |
|---|---|
| 1949 | 日本曹達株式会社の鉄鋼部門より分離独立し、日曹製鋼株式会社として発足 |
| 1952 | 東京証券取引所、大阪証券取引所に上場 |
| 1954 | 新発田工場の砂鉄銑設備をフェロニッケル製錬設備に転換 |
| 1957 | 八戸工場完成、砂鉄銑の製造開始 |
| 1959 | フェロニッケル製錬を専業とする大平洋ニッケル株式会社設立に伴い、新発田工場を分離 |
| 1965 | 八戸工場の銑鉄生産設備の一部を合金鉄およびフェロニッケル製錬用に転換、フェロマンガンに続いて、1966年にはフェロニッケル、1968年にはステンレス鋼の生産を開始する。1969年に2.5万KVA、1970年に4万KVAの大型電気炉2基を設置し、フェロニッケルの生産を増強 |
| 1970 | 大平洋ニッケル株式会社を吸収合併し、大平洋金属株式会社に社名変更<br>フェロニッケルのトップメーカーとしての基盤を確立 |
| 1972 | インドネシア・アネカタンバン社フェロニッケル製錬工場建設の技術援助契約締結（アンタム計画） |
| | 公害防止管理者水質関係第一種資格の当社社員初取得 |
| 1973 | フィリピンのリオ・チュバ・ニッケル鉱山（株）に資本参加し、ニッケル鉱山を開発 |
| 1974 | テレメータシステム協定締結 |
| | 公害防止管理者大気関係第一種資格の当社社員初取得 |
| 1978 | 公害防止協定締結 |
| 1980 | 産業廃棄物処分業許可 |
| 1983 | 岩瀬工場を分離し、大平洋ランダム（株）に研削材部門を営業譲渡 |
| 1984 | 直江津、富山、習志野工場を分離し、鋳鋼、鍛鋼、機械部門をそれぞれ大平洋特殊鋳造（株）、大平洋製鋼（株）、大平洋機工（株）に営業譲渡 |
| 1985 | 八戸工場を八戸製造所に改称 |
| 1992 | 一般・産業廃棄物最終処分場設置 |
| 1993 | 産業廃棄物技術管理士資格の当社社員初取得 |
| 1995 | 八戸製造所にフェロニッケル製錬電気炉6万KVA設置、3炉体制確立 |
| 1996 | 八戸港河原木第2埠頭完成（公共） |
| 1997 | (株)大平洋エネルギーセンターを設立 |
| | 原料輸送コンベアライン設備完成（河原木） |
| 1998 | ISO9002取得 |

| | |
|---|---|
| 1999 | 本社機構を八戸に移転しフェロニッケル専業メーカーになる |
| 2000 | 環境計量証明事業の登録 |
| | 株式会社大平洋エネルギーセンターの北沼発電所が電力供給開始 |
| 2003 | リサイクル事業の「焼却灰・ホタテ貝殻リサイクル施設」完成 |
| | ISO9001:2000に移行 |
| 2005 | フェロニッケル　100万トン生産達成 |
| | 青森県環境影響評価条例に伴う環境アセスメントを実施 |
| | 特別管理産業廃棄物処分業許可 |
| 2006 | フェロニッケル製造ライン増強工事完了 |
| | リサイクル事業の「溶解飛灰リサイクル施設」完成 |
| | 島守一般・産業廃棄物最終処分場廃止 |
| | 第二発電所脱硝装置設置 |
| 2007 | 全排水溝へ排水モニター設置 |
| | 排水口の一部に小規模排水処理装置を設置 |
| 2008 | フィリピン事務所 開所 |
| | ジャカルタ事務所 開所 |
| 2009 | ISO14001:2004取得 |
| | 湿式パイロットプラント設備 完成 |
| | フェロニッケル製造ライン増強工事完了 |
| 2010 | 鉱石ヤードへのダストモニター設置 |
| 2011 | 廃棄物処理状況のホームページ公開 |
| | 排水口、煙突監視カメラの設置 |
| 2012 | OHSAS18001:2007 取得 |
| | ISO17025:2005取得 |
| 2013 | 排水終末処理施設運転開始 |
| 2014 | 統合マネジメントシステム運用開始 |
| 2015 | コーポレートガバナンスコードに関する基本方針策定 |
| 2016 | 新たに「長期ビジョン」を策定 |
| 2017 | 一般社団法人 青森県産業廃棄物協会から「優良事業所」表彰 |
| 2018 | もったいない・あおもり県民運動推進会議（会長：青森県知事）より「もったいない・あおもり賞」を受賞 |